

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO 法人 よるべさ	代表者	小野田 直子	法人・事業所の特徴	南北に 70 キロ以上ある幌加内町の中でも市街地から 30 キロ以上離れた地域にある事業所です。介護サービスが市街地に集中しており、高齢化が進んだこの地域では除雪や病院が遠いなどの事情から地域を離れるしか選択がなかったのですが住み慣れた地域で最後まで過ごしたいという思いを支えていこうと平成 24 年に開設されました。登録者だけでなく、地域住民も対象とした、体操教室や買物ツアー、地域食堂などの行事を実施しています。
事業所名	スマイルホームえん	管理者	蔵前 直美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1		10		1			3		15

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	今後も全員の意見が反映できるように、事前に自己評価した資料を集めて集計して意見交換する方法を取る。地域の皆さんには自己評価をどのように実施したかや、職員構成が分かる資料を別に添付する。中間期に自己評価も含め改善計画全体の進捗状況確認と、見直しをする。自己評価の内容を理解してもらうために、運営推進会議等で「小規模多機能型居宅介護事業とは」「サービスの進め方、関係資料」などの説明機会を設ける。	・事業所自己評価は、職員全員から、個人の自己評価を集め、集計することはできたが、改善計画に対しての意見が少なかった。地域の皆さんには自己評価の項目ごとの狙いや、どのように利用者へのサービスが提供されているかなどの説明が出来た。 中間期の改善計画の進捗状況確認の時期が遅れてしまったが、出来ていない点があった箇所について、計画を達成する目安になり、次年度も同様に進めたい。 小規模多機能型居宅介護事業については、今年度から、運営推進会議に参加する方へもわかりやすく説明できた	・初期支援の項目では、ケアマネが何名との質問があり、担当している職員の説明をした。 ・日常生活の支援は利用者の能力をどのくらい把握しているのか？という質問があった。利用者の日々の変化についての情報共有の方法や、PT による評価実施について説明した。 ・連携協働ではボランティア活動との連携の状況についての質問があり、活動予定など説明した。 ・質を向上する取り組みで、時間外でも研修するとあるが、全員参加は難しいのではという意見がだされ、業務内での研修では意見交換の時間が取れない事や参加したい職員だけでも機会をつくり実施することなど説明した。	①自己評価の改善計画については、職員全員が意識するために、進捗状況を中間期に、職員全員で確認する。出来ていない点は、なぜ、出来ていないのか原因を探り、計画を達成できるようにする。 ②9月の運営推進会議に報告する。 ③廊下などに、小規模多機能についての内容が分かりやすいように説明する展示をする。
B. 事業所のしつらえ・環境	・来所者があったら、名簿に氏名と、利用者様との関係性なども記入できるように、受付においておく。 ・センサーへの担当の職員を決め、対応する。 ・季節感を大事にする。その時期に合った掲示物など、利用者様と地域の方で作成する機会をつくる。 ・防犯カメラの設置について町と協議する。	・センサーがなったら、職員が確認し来所者への対応をしていた。玄関に名簿を置いていなかったが、利用者への来所者の場合は、本人との関係を確認し、ほぼ名簿に記入することは出来ていた。 ・季節行事の掲示物は保育園児と利用者が作品を作り、掲示する機会があったが、毎月とはいかなかった。事業所の行事がなくても園児が普段から、遊びに来る機会が増えている。 ・防犯カメラについては、町との協議まではいかなかった。	・防犯カメラについては、この地域には郵便局の中にしかついていない。事業所に付ける場合は設置場所も注意が必要だと思う。 ・玄関のセンサーについては福祉寮の玄関についており、えんの方には設置されておらず、チャイムが鳴らなければ、まったくわからない状況を説明し自由に地域の方が出入りすることは良いが、職員が分からないことは困ることを伝えた。 ・物売りが勝手に入っていたなどは困る。	①外部講師による接遇の研修実施 ②センサーについての協議 ③季節行事の一覧を作成し作品づくりに向けての準備の計画を立てる。 ④保育所と連携し、利用者と一緒に作品を作ったり、行事を行う。 ⑤玄関をいつもきれいにする。

			・挨拶については「まあまあだ」との意見が出された。	
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者が決まっているので、5月の事業所の行事までに、職員紹介の掲示物を作成する。</li> <li>・老人クラブ、地域行事への参加を、継続する。</li> <li>・地域行事や事業所の行事を通じてお互いに協力し合える関係性を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員紹介の掲示は出来た。行事があった時に地域の方が熱心に見てくれたが、実際に地域の方に関わる職員が固定されていた部分もある。</li> <li>・老人クラブに参加する事は出来たが、食事や片付けなどで始終してしまったり、他の職員との情報共有が出来ていなかったため、参加した職員が報告書を作成し、参加していない職員も老人クラブ会員の状況がわかるようにした。それにより、ケアマネなどが、心配事がある会員への働きかけなどできる場面があった。</li> <li>・地域行事へ参加する職員は偏っていたが、積極的に行事を盛り上げる工夫が出来ていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域以外から来ている職員も、老人クラブ以外の行事に参加できないものか？との意見には、地域行事へ地元職員が出てしまうと、事業所にどうしても残らなければならない現状を説明した。</li> <li>・小学校の参観日に参加してもらい良かった。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①老人クラブ参加は、毎月担当を決めて職員全員が参加する。</li> <li>②参加した職員は、報告書を作成し他の職員に周知する。</li> <li>③職員紹介の掲示物を新しく作成する。（職員変更あり）職員のコメントを入れる。</li> <li>④地域以外から通っている職員が、何らかの行事に参加できるようにシフトの工夫をする。</li> </ol>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	今迄通り、地域行事やイベントに利用者様が参加できるように計画する。担当者会議を開催するときに、地域の民生委員さん等に参加案内をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への参加は、参加する利用者の安全面等考慮し計画実施することが出来た。大きな行事でなくても、近くにドライブしたり、住んでいた地区と一緒にいくなど配慮出来ていた。</li> <li>・冬期間は、外への行事に参加できる利用者が限られていた。</li> <li>・担当者会議に本人と関係性のある、地域の方や、民生委員さんの参加があった。事業所と一緒に、どのように利用者を支えていくかなど話し合いや、実際に支援の協力をしていただけた。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>①引き続き、担当者会議に本人と関わりのある方に参加してもらい、意見をいただく。</li> <li>②利用者が、地域の方と出かける機会をもてるように計画をたて、実施する。</li> <li>③地域行事、イベントへの参加を実施する。</li> <li>④清掃活動に利用者と一緒に参加する。</li> </ol>
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議に参加した方、全員に積極的に発言してもらえるように会議の進め方を検討する。（座席や議案内容） ・助け合いネットワークを実際に訓練し、今後の課題など検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議では、地域で心配な方の情報や、地域での困りごとについて議題に上げて話し合うことが出来た。解決に向けた動きが出来た問題もあった。</li> <li>年々、活発な意見が出るようになったと思う。</li> <li>助け合いネットワークについては、実際の模擬訓練が出来なかったため、課題が残った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議では、地域の困りごとを聞けていたと思う。</li> <li>・自動販売機の設置に向けて動いた結果、郵便局の前に置かれているがうれているのか？という質問が出た。</li> <li>地域の方が、大変喜んでいるという声も聞かれた。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①会議前に議題を練り、具体的な課題を出して意見を出やすくする。</li> <li>②地域の困りごとは、会議の際に必ず聞き取る。事業所からも、老人クラブなどで話されていたことなど、気が付いた点について投げかけ、話し合う。</li> <li>③多くの職員が会議に参加し、地域の意見をその場で聞けるようにするため、職員会議で参加するメンバーを決める。</li> </ol>

				④助け合いネットワークの模擬訓練の計画を立て、実施する。
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の避難訓練を必ず実施するために、年間計画を立てた時点で消防署に予定を伝える。</li> <li>・他施設の防災マニュアルを参考に、事業所に合った防災計画を立て、運営推進会議で検討する。</li> <li>・避難訓練は外に出た時点で終了しているので、そこからの動き、協力体制も計画に入れる。</li> <li>・自治区と協議して、物品の調整を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は事業所内では1回実施し、他1回は自治区の避難訓練に利用者と参加した。参加することで、改善点や、消防との確認事項が出来た。</li> <li>・防災計画については、まだ、改善しなければならない所があると思うが、一応できた。今回、大規模な停電があり、足りない物品がわかり、備蓄品は現在、かなりそろえることができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所での防災訓練の実施についての質問があった。</li> <li>・事業所の避難訓練参加には呼びかけがあれば参加するとの声が上がった。</li> </ul>	<p>①避難訓練の実施に、地域の方も参加してもらうために、事業所でたてた計画を運営推進会議で確認してもらい、意見をいただく。</p> <p>②防災備蓄品の管理は職員全員が把握できるようにするために、一覧表を作成する。</p>